

業務そくほう

日本貨物鉄道産業労働組合
2021. 2. 20
No. 642

2021年春闘交渉 趣旨説明

2月19日、本部は2021春闘交渉「趣旨説明」を行いました。
以下、報告します。

(組合)

要求書にも記載したが、新型コロナウイルス感染症の拡大は、JR貨物グループ全体に大きな影響を及ぼし、また、感染症拡大の収束見通しが全く見えないことで、かつてないほどの厳しい舵取りを余儀なくされている。このような中においても、組合員は「感染症に感染してしまう」という恐怖と闘いながら、国からの指定公共機関の責務として、日々、安全安定輸送に努めていることを会社は認識しなければならない。

2020年度1月改定では、経常収支2億の黒字計画としており、当初の事業計画からは大幅な下方修正を強いられているが、コロナ禍においても、2021年3月期業績見通しで黒字が見込めることは、組合員一人一人の努力の賜物である。

我が組織は新型コロナウイルスに伴う支援策をJR連合国会議員懇に繋ぎ、会社の経営を常に考えており、これまでの経過を踏まえれば、私達の要求に応えられる体力は十分にあると認識する。

2019年4月に新しい人事制度を導入したが、不信感や不安は多くあり、「このまま働き続けて大丈夫だろうか?」という声も多く聞く。人材は会社の財産であり、人材が無ければ会社は成り立たない。コロナという先の見えないこの難局を労使が一体となって打破していかなければ、会社が描くビジョンも構築できない。

最後に、会社はコロナウイルス感染症が収束した後のことも考えなければならない。今後、日本の経済は必ず復活し、労働人口減少により労働者の奪い合いが起きる。この戦いに敗れ、優秀な人材が集まらなければ、いずれ会社は衰退していく。将来に希望の持てる会社づくりをするのは会社の責務であり、会社の状況が厳しい

ことはよく理解しているが、組合員の生活も厳しいことを理解していただきたい。

以上、2021春闘要求の趣旨を説明したが、今後、真摯に交渉を重ね、回答予定日には誠意ある回答をお願いしたい。

会社・今年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、その影響は未だ終息する気配はない状況である。皆様には指定公共機関の使命を果たすべく、現場では通常と変わらない業務を行って頂いており、日々、ご家族と共に感染症拡大防止対策に取り組んで頂いていることに改めて感謝申し上げます。また、今冬期は日本海側、北海道で大雪による被害が続いており、先日、東日本大震災に匹敵する激しい地震も発生した。この間、皆様には、輸送手配や復旧作業等にご尽力をいただいたことにも併せて感謝申し上げます。1月改定を行い年度末に向けて単体・連結で経常黒字を目指すところであるが、新型コロナウイルスの影響、更にこの冬期の雪害等により取り巻く環境は大変厳しい状況になっている。労使で連携して最後まで目標に向かって頑張りたいのでご協力をお願いする。人事制度については、引き続き、社員が「生き生き、伸び伸び」と、「成長」、「やりがい」を感じられる制度にしていくのでご協力を頂きたい。

組合・輸送障害が多く発生し、連日ようにダイヤが乱れている中、組合員は安全安定輸送に努めている。会社が発展していくためには組合員の協力が必要不可欠であることを強く認識して頂き、誠意ある対応をお願いしたい。

会社・貴組合の趣旨は承った。今後社内で議論を重ねていく。引き続き真摯な交渉をお願いする。

以上